

縄文人 と 動物たち

縄文人は動物を土で形づくった。最も多いのはイノシシである。かれらが好んで食べた陸獣はイノシシとシカだが、造形品にはシカが少ない。

一方、弥生時代になると、土器や銅鐸にシカが描かれるようになり、イノシシは忘れ去られる。この逆転の理由は何だろうか。

講師



設楽博己教授
(考古学)

日程：2012年5月12日(土)
14時から15時30分
場所：東京大学本郷キャンパス
法文2号館1番大教室



主催：東京大学文学部 問い合わせ先：文学部総務チーム
e-mail : shomu@l.u-tokyo.ac.jp

入場
無料

事前申し込みの必要はありません。
満席の場合、入れませんのでご了承ください。

専門は日本考古学で、とくに縄文・弥生時代の文化と社会の研究に力点を置いている。東日本をフィールドとして、縄文文化から弥生文化への移行にどのような意味があったのか、西日本の弥生文化形成の歴史と比較して相対化し、列島内の農耕文化形成の多様性の解明を目指す。とくに、再葬という独特な葬儀や、縄文文化に特有の儀礼道具である土偶、あるいは入墨の習俗を取り上げ、それが縄文文化から弥生文化へと変化することに、どのような社会的な意味があるのか、探ってきた。その成果は、学位論文を母体とした『弥生再葬墓と社会』（塙書房、2008）にまとめた。ほかの主要著書に、『日本の美術第499号—縄文土器晩期—』（至文堂、2007）、『原始絵画の研究論考編』（共編著、六一書房、2006）、『先史日本を復元する4—稲作到来—』（共編著、岩波書店、2005）、『揺らぐ考古学の常識』（共編著、吉川弘文館、2004）、『三国志がみた倭人たち—魏志倭人伝の考古学—』（共編著、山川出版、2001）などがある。

東京大学文学部公開講座 第2回

縄文人 と 動物たち

○今後のご案内

- ・オープンキャンパス 日時 8月7日（火）
- ・ホームカミングディ 日時 10月20日（土）
- ・北見市公開講座 平成24年10月開催予定

○ご寄付のお願い

文学部・人文社会系研究科では、これまでに行われていた常呂公開講座（北海道北見市）に加え、昨年度から本郷キャンパスにおいても公開講座を開催しています。これは、文学部において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としています。文学部・人文社会系研究科では思想、歴史、言語、行動に関して多様な教育・研究を行い、その中には現代社会における人間の生と死をめぐる諸問題など、学際的な挑戦を行っている分野も多々あります。また、次世代人文社会学育成プログラムでは、多くの若手研究者を海外へ派遣し、教育研究活動の活性化が図られました。これらの活動をつづけるためには、外部からの資金が不可欠であり、これまで以上の皆様のご支援を必要としています。額の大小にかかわらず、個人・企業の皆様からのご寄付を得られれば幸いです。いただきましたお志については、文学部・人文社会系の教育・研究の発展のために活用させていただきます。そのために文学部・人文社会系研究科の教職員一同は努力し続ける所存です。